

# 動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。そろそろ定期テスト、同時に動物の世界の学習也大詰めですね。今までの学習のまとめとして「動物のなかま分け」をしている頃と思います。動物の不思議とすばらしさを感じ取っていますか。さて、今回は、「飼育員のカン」と「科学の力」の続きです



先月末に獣医さんに診断してもらった「モルちゃんず」、結果は、「シロ」だったはずですが、でも「チャマル」、やっぱりおなかの大きいのです。今度は、飼育員「幅崎」も強く要望、再び獣医の「伊藤」さんに診断してもらったところ、「心音あり」、1~2週間以内生まれるとのこと。急いで、別飼、様子を見ることにしました。(先週末)

13日、今日は火曜日、飼育員「幅崎」は週休あけです。動物園に着くと真っ先に担当

動物のもとへ、乾草の下で動く小さな命を発見しました。3頭のまだぬれていないモルモットの赤ちゃんが一生懸命生きていました。お母さんの「チャマル」の大きさと比べてまたびっくりです。知識では、親と同じ形で毛も生えて生まれるというのは知っていましたが、小型のハムスター程度の大きさの赤ちゃんが眼を開けているのにはびっくりです。やっぱり飼育員の観察で、本当にあたるものなのですね。にわか飼育員でもそれだけ見ているということですね。



比べるために先週生まれたウサギの赤ちゃんを紹介します。ミニウサギの赤ちゃんですが、生まれたときは体毛もほとんど無く、肉のかたまりです。母親が自分の毛を巣をつくり育てています。動物によって生まれてくる時のタイミングはかなり違うものなのですね。ところで「ヒト」は？(ゲッシ目テンジクネズミ科、ウサギ目ウサギ科)



## 動物園情報

「maruyama zoo」の看板を背負ったキーパーたち、担当動物の間を分刻みで駆け抜けながら仕事をしているエキスパートです。ところが実は、キーパーたち、みなさんに動物を思いっきり見せたがっているのです。(もちろん動物の状態が悪いときは絶対NGです。)結構いろいろと教えてくれますよ。たまに「教科書」の矛盾も突いてくれますし、なんといっても命を大切にしているあたっかい集団です。一度、話を聞いてみませんか。



今回は、科学力を飼育員の観察が上回った結果となりました。でも、すべてに当てはまったわけではありません。もう1頭、どうしてもあやしい個体があったのですが、そちらは「シロ」のままでした。新聞でも紹介されましたが、「円山動物園」の動物病院は、見学可能なガラス張りコーナーがあります。通常の見学コースからは外れますが、ここも必ず寄ってほしいポイントです。(獣医さんたちも代番があるので、いつも病院いるとは限りません。どうしても見学したいときは、学校を通して相談しよう！)